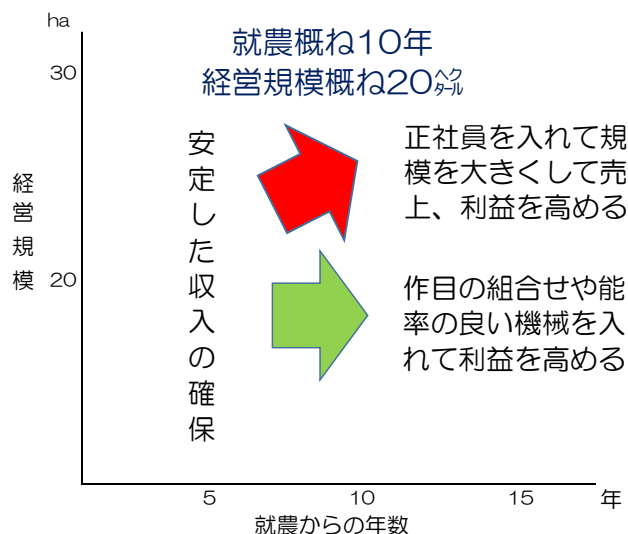


大規模稲作農家の経営のポイント



稲作経営の規模が大きくなる時の対応

大規模稲作の経営のポイント

ポイント	正社員有		正社員無	
	平坦地	中山間地	平坦地	中山間地
	正社員の活用	地域との連携の向上	省力技術・機械の活用	商品価値を上げる販売の工夫

開発のねらい

大規模稲作経営を目指すための視点として、県内の大規模稲作経営の特徴や経営者の重要視する考え方を分析し、稲作農家が経営の中で工夫しているポイントを整理しました。

新技術の概要

- 就農して間もない時期は安定した収入が得られる取り組みを行う。就農から概ね10年が経過し、経営規模が20haを越えても、家族経営を続ける場合は、作目の組合せの変更等により利益を高める。さらに、より大規模を目指す場合は個人から会社に組織を変え、正社員を入れることを選択する必要があります。
- 大規模稲作経営のポイントは下記のとおりです。
 - ①正社員のいる平坦地の経営では「正社員の活用」
 - ②正社員のいる中山間地の経営では「地域との連携の向上」
 - ③正社員のいない平坦地の経営では「限られた労働力を活かす省力技術」
 - ④正社員のいない中山間地の経営では「商品価値を上げる販売の工夫」

活用場面

大規模稲作経営体を目指す経営者のモデルとして活用すると共に、指導機関が経営体を育成する指針として活用できます。